

地域住民、町民、各種団体、事業者等の参画によるワークショップでまとめた 「鮎壺公園の整備と下土狩駅周辺の活性化等の考え方」（概要版）

（鮎壺公園整備・下土狩駅周辺等活性化ワークショップにおける意見の取りまとめ）

長泉町 建設計画課



ワークショップ開催の背景と目的

長泉町では、平成30年度に都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定を行い、長期的な視点のもと、誰もが住みやすいまちづくりを進めています。

このたび、その取組みの一つとして、下土狩駅に近接し、鮎壺の滝に隣接する「鮎壺公園」について、都市計画で定められている公園の区域内にあった軽自動車車検場の移転や「鮎壺の滝」の世界ジオパーク認定等を契機に、整備することを検討しています。また、本町の中心拠点である下土狩駅周辺についても鮎壺公園の整備と連携した活性化方策を模索しています。

そこで、住民や各種団体の皆さまと現状の課題や対応策など、様々な意見交換を行い、整備計画に反映するため、「鮎壺公園整備・下土狩駅周辺等活性化ワークショップ」を開催しました。

ワークショップの開催概要

●参加者

地元区、シニアクラブ、子ども会、各種団体、事業者、公募町民、大学生、
（株）地域まちづくり研究所（運営協力）、長泉町建設計画課（事務局）など



●開催日・内容等

回	開催日	参加者数	内容
第1回	8月11日（土・祝）	47名	・趣旨等の説明 ・鮎壺公園の現状と課題 ・鮎壺公園の整備等のアイデア
第2回	8月25日（土）	47名	・下土狩駅周辺の現状と課題 ・下土狩駅周辺の活性化のアイデア ・鮎壺公園と下土狩駅周辺の連携について
第3回	9月22日（土）	45名	・鮎壺公園の整備等についてのまとめ ・下土狩駅周辺の活性化についてのまとめ

ワークショップにおける意見のとりまとめ

全3回開催したワークショップは、地域住民の皆さんを中心に、各種団体や事業者等も含めた様々な立場の方々に参加していただきました。年代も大学生や子育て世代から高齢者まで、幅広い年齢層で構成され、多様な視点から意見交換が行われました。

町では、そこで出された多くの意見を取りまとめ、「ワークショップでまとめた鮎壺公園の整備と下土狩駅周辺の活性化等の考え方」として整理しました。



※以下の「考え方」は、ワークショップ参加者の皆さんの意見を集約し、考え方を整理したものであり、整備計画等を検討する際に参考としますが、この考え方に載っている内容が必ずしも実現するとは限りません。

ワークショップでまとめた「鮎壺公園の整備等の考え方」

(1) 地域住民や町民が、気軽に訪れ、楽しむことのできる公園づくり

① 地域住民や町民の憩いの場としての公園づくり

・様々な世代の地域住民や町民が、日頃から憩い、楽しむ公園づくりを望みます。

② イベントや活動の場として人々が集う公園づくり

・時には、イベント会場や地域または各種団体等の活動場所として利用できるよう、多目的に利用できる芝生広場等を整備することを望みます。

③ 誰もが使いやすい公園づくり

・ユニバーサルデザインへの配慮など、誰もが使いやすい空間づくりを望みます。
・周辺環境への影響に配慮しつつ、利用しやすい利用ルールを設定を望みます。

④ 安全・安心に利用できる公園づくり

・見通しや明るさの確保等により、防犯面に配慮した公園整備を望みます。
・大雨等による浸水対策を進め、安全に利用できる公園となることを望みます。



① 特徴的な自然や美しい景観の保全と活用

・鮎壺の滝や富士山の美しい景観、潤いある水辺や豊かな樹木等を適切に保全し、町民や来訪者がその魅力を楽しむことのできる環境を望みます。

② 来訪者がアクセスしやすい環境づくり

・大型バスも駐車できる利用者駐車場の充実や周辺道路等への案内サイン、アクセス道路の整備等により、あらゆる手段のアクセス性が向上することを望みます。



(3) 公園の魅力向上と官民連携による維持管理や運営

① 公園の魅力向上と効果的・効率的な整備

・公園の魅力や利用者の利便性を高めるよう、カフェや長泉の特産品等を販売する売店等の導入検討、あるいは関連する試験的な取組みの実施を望みます。
・公園整備に掛かる町の財政的負担を最小限に抑えるため、民間施設等の設置により、収益の一部を公園整備や維持管理等に活かす方策を検討することを望みます。



② 多様な連携による維持管理や運営

・地域や事業者、行政等の協働により、効果的な公園の運営や維持管理、情報発信等を進めることを望みます。
・周辺地域と連携したイベント開催等により、公園と周辺地域が相互の魅力向上や課題解決につなげます。



鮎壺公園として整備する区域の考え方

・「既存工場部分も含めた一体的な整備」を求める声がある
・ワークショップで望まれている公園整備を実現するためには、一定規模の面積が必要

既存工場部分を含めた整備が望ましい

・施設の老朽化、バリアフリーへの未対応、防犯上の不安等の課題への対応・改善が求められる

既存公園・緑地の再整備が望ましい

・軽自動車検査場が移転
・ワークショップで望まれている公園整備を実現するためには、まとまった敷地が必要

軽自動車検査場跡地を含めた整備が望ましい

※最終的な整備区域の決定には、地権者との交渉や事業費の調整等の必要があります。

ワークショップでまとめた「下土狩駅周辺の活性化の考え方」

(1) 利便性・快適性の向上とにぎわいづくり

・町の玄関口である下土狩駅周辺が、人々が集い、にぎわう場所となることを望みます。
・買い物客が往来し、立ち寄りたくなる、魅力あふれるまちとなることを望みます。
・鮎壺の滝等の観光客をソフト・ハード両面から誘導し、消費を促すことを望みます。



(2) 地域の個性を繋ぐ魅力的なネットワークづくり

・官民が連携して地域資源等を活かし、地域の回遊性向上につなげます。
・主要施設や地域資源等を結ぶルートを中心に、住民や来訪者が地域内を安全で快適に移動できる環境を整えることを望みます。



(3) 下土狩駅周辺に訪れやすい仕組みづくり

・三島駅北口と下土狩駅周辺への交通アクセスを向上させることを望みます。
・町営駐車場の利便性向上等により、自動車利用者の利便性の向上を望みます。



(4) 多様な主体が連携する活性化方策の展開

・様々な主体が協力し、比較的取り掛かりやすいソフト施策を実施していきます。
(多様な主体が連携したイベントの開催やご当地商品の開発、効果的な情報発信等)

